

# 京都府生協連 ニュース

2003年 7月 7日

No. 44 (通算110号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

## 京都府生協連 第50回通常総会開催

～全議案を可決承認、第50回総会アピールを採択～



6月10日、池坊学園 洗心館にて

＜お二人のご来賓からご祝辞をいただきました＞※黄瀬次長には京都府知事のご祝辞を代読いただきました。



京都府商工部次長 黄瀬謙治さん



京都労働者福祉協議会会長 羽室武さん

### CONTENTS

1. 京都府生協連 第50回通常総会特集
2. おもな行事のお知らせ

# 京都府生協連第50回通常総会報告

6月10日(火)午後1時30分より、池坊学園洗心館で、「京都府生活協同組合連合会 第50回通常総会」が開催されました。

代議員総数41名のうち代議員の参加は39名(内委任3・書面1)、役員・来賓他あわせ70余名の参加となりました。

京都府生協連 吉田智道会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓のみなさんをご紹介しました。京都府知事山田啓二さん(代理・京都府商工部次長 黄瀬謙治さん)、京都労働者福祉協議会会長 羽室武さんからのご祝辞をいただきました。(表紙でご紹介しています)



吉田智道会長理事

また、今回は5名の国会議員秘書・事務所長のみなさんにもおこしいただきました。

あわせて京都府議会議長、国会議員各政党会派、関係団体、各生協などからいただいた74通の祝電・メッセージをご紹介しました。



## <ご臨席いただいた国会議員秘書・事務所長のみなさん> (順不同・敬称略)

奥山茂彦衆議院議員秘書 藤野雅彦  
菱田嘉明衆議院議員事務所長 奥田俊治  
玉置一弥衆議院議員秘書 高山和己  
福山哲郎参議院議員秘書 田中健志  
松井孝治参議院議員秘書 木元俊大

## <お寄せいただいた祝電・メッセージ>

(順不同・敬称略)

自由民主党衆議院議員 奥山茂彦  
民主党衆議院議員 前原誠司  
民主党衆議院議員 山井和則  
民主党衆議院議員 玉置一弥  
民主党参議院議員 福山哲郎  
民主党参議院議員 松井孝治  
公明党衆議院議員 池坊保子  
日本共産党衆議院議員 こくた恵二  
日本共産党参議院議員 市田忠義  
日本共産党参議院議員 西山とき子



日本共産党参議院議員 井上さとし  
京都府議会議長 田坂幾太  
京都市長 桝本頼兼  
京都商工会議所会頭 村田純一  
J A京都中央会会長 中川泰宏  
京都府漁業協同組合連合会代表理事会長 上田功  
京都市社会福祉協議会会長 北川龍一  
きょうされん京都支部長 粟津浩一  
京都府商工団体連合会会長 加藤建夫

## すべての議案が可決採択

提案された6つの議案について、1～5号の各議案は代議員の賛成多数もしくは満場一致で可決・承認されました。6号議案 役員補充選挙については、立候補が定数内の3名であったため、役員選挙管理委員会委員長より、定款と役員選挙規約にもとづき全員を無投票当選とする旨が報告されました。

| 議案                              | 反対 | 保留 | 賛成 | 合計 |
|---------------------------------|----|----|----|----|
| 第1号議案 2002年度 活動報告・決算報告承認の件      | 0  | 0  | 38 | 38 |
| 第2号議案 2002年度 剰余金処分案承認の件         | 0  | 0  | 38 | 38 |
| 第3号議案 2003年度 活動方針・活動計画および予算決定の件 | 0  | 0  | 38 | 38 |
| 第4号議案 2003年度 役員報酬限度額決定の件        | 0  | 1  | 37 | 38 |
| 第5号議案 議案決議効力発生の件                | 0  | 0  | 38 | 38 |
| 第6号議案 役員補充選挙                    |    |    |    |    |

※出席代議員の合計39名（本人出席35 委任出席3 書面1）うち議長は採決に参加せず

### <新しく役員に選出されたみなさん>



理事 高田 艶子さん  
(京都生協常任理事)



理事 大竹 聖和さん  
(同志社生協専務理事)



監事 宮村 浩一さん  
(京都大学生協常務理事)

### <今期で退任されたみなさん>

理事 吉田 隆英さん (前同志社生協専務理事)

理事 廣瀬 佳代さん (京都生協常任理事)

監事 疋田 利政さん (前同志社生協常務理事)

### 【京都府生協連2003年度役員体制】(敬称略)

<会長理事>吉田 智道 (員外)

<副会長理事>小林 智子 (京都生協)

<専務理事>小峰 耕二 (京都生協)

<常任理事>小川 正 (京都府庁生協常任理事)

酒井 克彦 (大学生協京都事業連合専務理事・  
池坊学園生協専務理事)

田中 弘 (京都医療生協専務理事)

<監事>島田 浩 (京都府庁生協監事)

新堀 悟史 (乙訓医療生協理事)

宮村 浩一 (京都大学生協常務理事)

<理事>栗飯原 利弘 (龍谷大学生協専務理事)

大関 健朗 (乙訓医療生協専務理事)

大竹 聖和 (同志社生協専務理事)

大塚 正文 (京都橘女子学園生協専務理事)

木村 世志雄 (全京都勤労者共済生協専務理事)

佐藤 京子 (やましろ健康医療生協理事長)

吹田 知久 (京都府医大・京都府大生協専務理事)

平 信行 (京都大学生協専務理事)

高田 艶子 (京都生協常任理事)

寺尾 正俊 (京都教育大学生協専務理事)

沼沢 明夫 (立命館生協専務理事)

松浦 順三 (京都工芸繊維大学生協専務理事)

森川 隆 (やましろ健康医療生協常務理



## 11名の代議員から発言を受けました

当日は、11名の代議員から、食の安全をもとめるとりくみや組合員活動、経営問題や平和のとりくみ他についての活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、小峰専務理事は「今後も組合員の運営参加と事業の改善改革をめざしてとりくみをすすめていく。京都府生協連として、連帯の場の創造と対外的に京都における生協活動への理解と促進につとめたい」とのまとめをおこないました。

### 【代議員発言】

#### 1、京都生協 金澤栄子 代議員

##### 「食の安全をもとめるとりくみについて」



食品衛生法の改正を求めて始まったとりくみは、この間に食品安全基本法の制定、食品衛生法の改正という大きな成果を生み、大変喜んでいきます。京都生協では府内の市町村議会へ行政区委員が中心となって働きかけ、国に向けて意見書採択を要請してきました。これまでに30自治体で組合員の意見書が採択され、02年度は13の自治体で採択されたのですが、今回はその中の福知山市、三和町、大江町での請願活動を事例として報告したいと思います。最初は家族を思う母親の思いから「知り合いの議員さんに聞いてみよう！」ということでスタートしました。福知山市では02年度に要望書という形で要請したときは採択されませんでした。その後の行政委員会では要望書と請願書

の違い、議員の方々にはどう話をしていくものなのかなど活発な話し合いがあり、三和町、大江町へは組合員が直接説明するという活動になりました。これは大変でしたが、普段から地域に根づいた活動をしていることが議員の方々からの信頼を得て、採択につながったかと思えます。福知山市の本議会の傍聴した組合員たちは、全員一致で採択されたときは拍手をしたいくらい感動した、とても貴重な経験だったと報告されていました。このようなとりくみが京都府内で、また全国の生協でおこなわれ、今回の法改正につながったと思えます。これからはどう実施されるかを見守りたいと思えますので、府連には今後もリーダーとして支援をお願いしたいと思います。



#### 2、エルコープ 石田紀郎 代議員

##### 「10年目を迎えたエルコープの活動」



昨今の農業をめぐる問題にはあんたんたるものがあります。エル・コープはこの数年、自分たちの社会的存在としての生協をどう表現するかという課題について考えました。特に遺伝子組み換え作物の問題に取り組んでいます。これはグローバリゼーションの中で押し寄せてきている一番大きな波でしょう。遺伝子組み換え技術というのは極めて不完全で不安定なものにもかかわらず支持されて来

ました。02年度は、愛知県で開発されている遺伝子組み換えイネに対して「ストップ! GM イネ全国集会」に連帯し署名を集め、遺伝子組み換え(GM)イネ=除草剤耐性「祭り晴」の開発阻止を訴えてきました。そしてついに愛知県では開発商品化を断念したのです。今後、国内でどうとりくみをすすめていくのかということでは、日本の食の安全を守るキーポイントとしてさらにながらばっていききたい。



#### 3、京都生協 渡辺明子 代議員

##### 「組合員活動について」



組合員が生協に加入する動機というのは色々です。ほとんどが便利で安心できる商品が手に入るという理由ですが、組合員活動に関わるのも、もっとよい商品、もっと便利な商品になって欲しいという動機からです。一例として5年前から始まっている商品作り運動について紹介

したいと思います。子育て世代の組合員たちがおいしいラーメンが食べたいとの思いからラーメンの開発をされました。カンスイ、麺、スープの研究や学習を重ねて商品が完成しましたが、残念ながら思うように売れませんでした。組合員の願いを事業でかなえるこれが生協ですが、それが簡単ではないことに気づかれたのです。組合員の思いなしでは生協はありえない、それを互いに確認

できた運動でした。変化していく時代にあって、同じ願いをもつ組合員たちと共感を得られることが、一人ひとりの成長につながると思えました。ラーメンはその後、規格・包材を見直し、冬期限定の幻のラーメンとなり再

デビューしましたが、やはり売れず。組合員たちは「ラーメン食べさせ隊」を結成し、今は冷凍ラーメンの開発に意欲を燃やしておられます。学ぶべきものが全て組合員の暮らしの中にあると思います。

#### 4、立命館生協 岩崎全智 代議員

##### 「大学生協の学生委員の活動について」



立命館生協の活動についてお話しします。学生が満足して食堂を利用できるようにと、きしめん・杏仁豆腐など学生が考えたメニューが販売されています。焼きたてパン

が食べたいという一人の学生の声から、職員手作りの焼きたてパンが40種類販売されています。購買部では学生が考えた立命館グッズが売られています。一人の院生の発案で2つのキャンパスシャトルバスのチョコQが誕生しました。また、もっとクリーンなキャンパスをめざそうと、大学の様々な学生組織で立命環境会議を設けていっしょにとりくんでいます。昨年の学園祭では学内の環境を考えるきっかけになるように、ゴミ分別ナビゲーターをおこないました。ゴミ箱コンテストもおこない、最優秀賞は実際に学内に置けるようにと学校側と話し合いを持っている最中です。また、学生の健康・安全の為、

栄養士の方を学校に来ていただいて食生活相談会を開催し、アルコールパッチテストなどもおこないました。昨日の衣笠キャンパスでは3時間で約100名の学生が相談にきました。バイクに乗っている学生が多いので、プロの整備士の方に点検してもらい安全を訴えかけてきました。又、お酒・骨・食生活・心・交通安全・タバコ・運動・性の8つの分野で健康安全に対する企画を全学規模でおこなう、全学健康DAYもおこないました。受験宿泊という活動もあり、遠方から本学を受験する受験生に生協がホテルを斡旋し、現役の立命館生が学生相談員としてホテルに出向き、受験生が次の日の試験に万全の態勢で望めるように相談に乗ったりしました。勉強や友達関係、あるいは一人暮らしに不安のある新生生には、新生生歓迎パーティや新生活センターを開催、この2つの取り組みは編入生・社会人学生・留学生に対してもおこないました。

#### 5、京都府庁生協 今西静生 代議員

##### 「行政再編のなかでの府庁生協の活動について」



京都府唯一の職域生協として頑張っております。今から30年前に創立され、長い間には厳しい状況や局面があったが、2年続きで非常にわずかだが事業剰余があり、

2002年度は0.5%の出資配当が行なえました。職域ということで、例えば環境行政・農林業行政についても生協活動に全て敏感に影響してきますが、生協の活動を貫いていこうと頑張ってきました。特に理事と組合員代表が一緒になって様々な事業の検討や改善をめざすとりにくみを心掛けました。3年位前には経営構造の改善を検討し、むだを省く、より組合員の参画利用を図る等に全力をあげてきて、今回の成果もこういう出発点があったからだと思えます。京都府は全体に南北に細長く、ともしれば本庁中心の活動事業になりがちですが、府内や郡部の組合員に向けて生協の恩恵や事業の成果を味わっていただける工夫をしました。例えば出張弁当・配達弁当等も市内構成を一層広げる中で多くの組合員に食べていただく。あるいは無料バスをチャーターして讃岐うどんツアーや神戸散策を格安で提供してきました。「くらしコープ」と

いう月刊誌を発行し、知って得する情報としてあらゆる生活になじんだ生協の事業紹介を数回にわたっておこないました。今後の課題としては例えば現在府内に12ある地方振興局が16年度には4つになる等、府庁生協にとって非常に大きな影響があると考えております。このような中でこれからの事業展開をしっかり検討していかなければなりません。



## 6、同志社生協 大竹聖和 代議員

「大学生協の経営再建と再生について」



最近の特徴は学校の変化が激しく、今までは内部でやっていた仕事をどんどん外へ発注していこうという、アウトソーシングの流れになってきています。そのような中で、

大学・学生・院生の思っていることにどう寄り添っていくのかが、経営再建をすすめる上で大きな課題と考えています。一例ですが、最近、京田辺学舎に学生支援セン

ターができ、昨年の春から秋にかけて学生にアンケートをとったところ、1・2回生を中心に英語力を高めたいという要望が強くありました。そこで生協で英語の非常勤講師のネットワークを通じ、直接商品として TOEIC を仕入れ、大手に負けない値段、品質で大学に提供しました。大学の中に生協のある意味を理解していただき、大学に寄り添っていこうと考えております。大変さもありますが、再建をめざしてとりくんでいきます。



## 7、乙訓医療生協 宇野迪男 代議員

「医療生協の活動状況について」



医療の問題について、国民に負担が強いられている現状ですが、医療事業とともに介護事業等、乙訓地域でいよいよ一定の役割を果たせる時が来たと思っています。今後

後どういう長期計画を持ってすすむのかという議論が始まっていますが、乙訓医療の特徴としては支部を基礎に班で活動し、地道なとりくみが前進していることです。「青い空」という機関紙は郵送だけではなく、9割方を組合員が地域に配達しています。乙訓には6つの小学校区

全てに支部があり、長岡京市・大山崎町に1つの支部、また右京の里を中心に西京支部があり、合計8つの支部があります。8支部とも運営委員がいて会議を開き、健康チェックや組合員親睦会もやっています。全体的には通信教育や健康祭り等の活動もあります。支部単位で地域に根ざして組合員一人一人が積極的に参加するようとりくみが必要だと思い、それが活発化しているのが最近の状況です。一人ひとりの組合員に参加してもらえよう意識しながらすすめています。



## 8、やましろ健康医療生協 宮本繁雄 代議員

「医療制度改悪と生協活動について」



あさくら診療所・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション、一昨年には歯科診療所を作り、4つの事業所でやっています。この間比較的、経営は右肩上がりの状況

が続いていましたが、この間の医療改悪等で経営も深刻な状態になってきています。利用されている組合員数の実数は減っていないが、慢性疾患で1週間に1度来院されていた患者さんが2週間に1度になるなどの状況が出ています。事業収入も昨年はじめてマイナスになりました。そんな中で医療と福祉のネットワークをこのやましろ地域で作っていこうと頑張っています。京都南部は深刻な不況をまともに受け、失業率も高く多くの組合員の健康がむしばまれています。我々が仲間を増やし、組合員の健康と医療を守っていこうという活動を続けていかなければならないと思います。特に社会保障制度改悪の問題については全力で頑張ってきました。去年1年間で集めた署名は約16,000筆になり、医療と健康についてしっかりと勉強できる組合員になっていこうと勉強会も50回程しました。京都生協に協力いただき、医療スタッフも出て医療相談を開いたところ、100人ほど参加がありま

した。今後は体脂肪検査のほかに骨密度測定器を購入し活用しようと思っています。組合員を中心とした事業活動が大事だと「虹の箱」という投書箱を事業所に置き、役員と組合員の代表が医療委員会を作り月に一回投書に答えるようにしています。質問と回答に関しては全情報開示するようになっております。なるべく組合員の声を生かし解決していく、双方向で事業を進めていくことが大事だと考えております。





## 9、全京都勤労者共済生協 佐藤典治 代議員

### 「共済生協の活動について」



共済生協の活動内容について申し上げます。保険業界全般では5月末の決算で解約が続出し、新規契約をはるかにオーバーしているような状況で大変厳しいですが、全労済は消費者の信頼を勝ち得て、経営的にも少しですが拡大しています。しかし、リストラの影響で職域・団体

では前年比約2万件、3.4%の減少です。そういった中で在職中も退職後も変わらない保障、安定した保障を検討していかなければなりません。その一方で、地域向け、家庭向けの国民共済は今年で20周年を迎え、京都では約14万件的契約をいただいています。10%弱の成長で順調に伸びていますので、20周年を機にさらに府民の方々に宣伝をし、15万件に拡大していきたいと考えています。

## 10、京都医療生協 助 祥子 代議員

### 「男女共同参画のとりくみについて」



府連の男女共同参画委員会の活動について報告させていただきます。この委員会は発足から4年目にはいっております。わずかな委員でやっておりますが、今年の活動としてはJAの女性協の皆さん、漁連、森連の女性の方と国際協同組合デーの懇談会を持ち、交流がすすんでいます。今年も7月2日に国際協同組合デーがあり、この日の午前中に商品を中心にした交流会を持ちたいと考えております。ぜひご参加ください。そのほかにはKYOのあけぼのフェスティバルワークショップというのがあり、府内の女性達が集まっての交流会に3年間参加してきま

した。府連の中では頑張っていますが、会員生協のレベルでは男女共同参画の考え方そのものがなかなか普及しないのが現実です。そこで、関西ジェンダーフォーラム懇談会で寸劇のシナリオ集と素語録(双六)を作りましたので、お呼びいただければ寸劇の劇団員として委員が参加しますので、学習会を開催してください。又、素語録(双六)もほぼ完成し、それを持って一般の組合員のところに行き、女性の参画、ジェンダーの問題等を広めていきたいと思っています。人類の半分は女性、政策決定の場で色々なアイデアと力を発揮してくれることは間違いありません。男女共同参画をもう一度真剣に考えていただきたいと思います。

## 11、京都生協 中土三津子 代議員

### 「平和のとりくみについて」



生協は歴史の中で不幸な戦争を経験し、平和でなければより良い生活を守ることはできないとしてきました。京都生協でもこの間、核兵器廃絶の課題を重視して、平和行進や原爆パネルの展示などで学習会をして平和の大切さを学び、広めるとりくみを行ってきました。しかし、平和をおびやかす状況が世界で次々と起こる中、組合員の中からは核兵器以外の問題にも不安の声が出始めました。これまで核兵器問題については明確な態度と対応を行ってきましたが、平和をめぐる様々な問題については、必ずしも京都生協として一致した考え方を明確にはしていませんでした。そこで、組合員と一緒になぜ京都生協は平和のとりくみをするのか、平和とはどういうものか等話し合いを重ね、昨年4月に『京都生協平和への願い』を策定しました。基本理念には人々の生命や暮らしがおびやかされないこと、人間らしい生活が平和のうち

でこそ、私たちは安全・安心な食べ物を手に入れることができ、豊かな生活文化を創造していくことができるのべられています。誰もが一致できる範囲で平和についての基本的な考え方を明確にしたものです。この間も国内では有事法制、国外ではテロやイラク戦争、北朝鮮の問題等、平和をめぐる問題が続発しています。有事法制については、多数の疑問や不安の声がある中で性急に成立させることは大問題として、『平和への願い』にもとづき昨年6月7日に廃案を求める理事会声明を出しました。12月5日にはイラク問題に対する理事会声明、3月20日にはイラク軍事攻撃に対する理事長見解を出し、武力によらない解決をうたえました。『平和への願い』の中では、組合員が平和のことを学習し考え合おうと呼びかけています。私の住む地域でも行政区委員会・平和クラブが中心となって有事法制の学習会が開かれました。こういう時代だからこそ平和について皆で考えるべきではないでしょうか。

総会当日、佐藤京子理事より総会アピールが提案され、拍手で採択されました。

<京都府生協連 第50回通常総会 「総会アピール」>

**組合員と地域社会の信頼にこたえて、京都の生協活動を豊かに発展させましょう**

—21世紀を平和で、人間らしい健康で生き生きとした暮らしを実現する、持続可能な社会としていくために—

2003年6月10日

京都府生活協同組合連合会第50回総会

さる3月20日、アメリカ・イギリスは、多くの国際世論に背をむけて、イラクへの戦争行為を強行しました。日本政府は、いち早く、これにたいする支持の態度をあきらかにする一方で、急ピッチで「有事」、すなわち戦争を想定した法整備をすすめてきています。「有事三法案」について、私たちは再三にわたり慎重審議を要請してきましたが、国民のあいだに疑問や不安の声が根強く存在したまま、国会通過がはかられたことは、たいへん遺憾であり、つよく抗議するものです。

そして、わたしたちの暮らしをめぐるのは、企業の倒産・高い失業率・就職難など、きびしい状況がつづいています。くわえて、医療制度や年金制度の改悪がすすみ、国民の健康と生活への不安はますます大きくなっています。

戦後の生協活動は、「平和とよりよい生活のために」を合言葉に、あたらしいスタートを切りました。半世紀たった今、このことの意義について、あらためて、ふりかえりながら、21世紀を平和で、人間らしい健康で生き生きとした暮らしを実現する、持続可能な社会としていくために、組合員と役員がともに力をあわせて、生協活動を大きく発展させることをたしかめあいたいとおもいます。

本日、京都府生活協同組合連合会は、第50回総会を開催しました。京都における生協への加入数は69万人を数え、地域・学園・職域・医療・共済など多くの分野で、組合員の経済的・社会的・文化的ニーズにもとづいた事業・活動がすすめられています。

私たちが、この数年にわたり、すすめてきた食の安全をもとめる活動はひろい国民的な世論となり、今国会で食品安全基本法・食品衛生法改定案が成立するなど、食品安全の社会システムの実現へむけて、大きな一歩をふみだしました。さらに消費者保護基本法の34年ぶりの大幅な改正も予定されており、多くの府民によびかけながら、消費者権利の確立のための取り組みを力づくよく、すすめていく必要があります。

地域社会と組合員の信頼にこたえ、「正直・公開・社会的責任・他人への配慮」(95年国際協同組合同盟 [ICA] 声明) という倫理的価値を大切にしながら、京都における生協活動を豊かに発展させていきましょう。

## おもな行事のお知らせ

### 役職員研修会

主催：京都府生協連

協力：京都府商工部消費生活課

日時：7月15日(火) 13:30~16:00

会場：京都府庁内 福利厚生センター第1会議室

テーマ：「21世紀の消費者政策～消費者の権利

保障と事業者の社会的責任確立」

講師：京都産業大学法学部教授・坂東俊矢先生

### 理事長懇談会

主催：京都府生協連

日時：7月24日(木) 16:00~19:00

会場：コープイン京都

テーマ：「生協におけるコンプライアンス経営確立にむけて」

講師：日本生協連政策企画室・小熊武彦氏

### 京都府協同組合職員体験・交流学校

主催：京都府協同組合連絡協議会(京都府生協連、

J A京都中央会、京都府漁連、京都府森林組合連)

日時：9月12日(金)~13日(土)

### 2003年度京都府総合防災訓練

主催：京都府

日時：9月6日(土) 7:00~11:30

主会場：向日市 キリンビール京都工場跡

※京都府生協連は緊急物資搬送訓練に参加